



(一社) 日本ボーイスカウト神奈川連盟 川崎スカウトクラブ

目次

マスクについて	谷本通安	1	[水泳章]	小川芳郎	2
「通信章」とバーコード	稲葉正明	3	ジャンボリー物語「10NJ」	北村岳人	4
川崎市災害対策訓練奉仕	境 紳隆	5, 6	植物の在来種と外来種	渡部 公	7
活動報告・編集後記		8			

【マスク】について

会長 谷本 通安

新型コロナウイルスの「5類」移行に伴う感染防止対策としてマスクの着用ルールが盛り込まれた「基本的対処」方針が改訂された。新指針によると着用に関しては「屋内、屋外を問わず個人の主体的な選択を尊重し個人の判断に委ねる」としたが、専門家によると効果はマスクを着けた人のリスクが未着用の場合と比べて 0.84 倍低下するとの解析結果を取り上げ、リスクを考慮した上で場合に依じて着脱する必要があると慎重な認識を示し、少しずつ日常を取り戻して欲しいと求めたが、教育現場では困惑と不安の波紋が広がっている。

2類から5類にしたからといってコロナウィルスが消えたり性質が変わったりする訳ではない。敢えてマスクを外すべきか否かは政府が決める問題ではなく、自分の身を守る為には最終的に自分自身で判断するしかない。マスクと言えば近年、定番の白色に加えて種々な色を着用する人も増えてきた。

マスクの歴史を紐解くと、実は黒色が主流だった。

鼻と口を保護するマスクの起源は1世紀まで遡る。

古代ローマの時代、鉱山で働く人々を粉塵から守る為に作られた。日本にマスクが登場するにはそれから約1800年後のこと。“マスク第1号”とされるのが、明治12年発売の「レスピラートル」だ。

日本では「呼吸器」とも呼ばれたこの布製のマスクは覆いの部分が硬く、裏返すと口が直接当たらない空洞状になっており、今の立体型マスクのような形をしていた。又、空洞部分には金属糸がびっしり編まれており、汚れた空気をろ過する役割を担っていた。そして肝心な色はと言えば「黒」で、まだその当時のマスクは古代ローマの時と同様、炭坑や工場等での粉塵除けを主目的として使われていた為汚れが目立たないように黒色が採用されていたのである。

黒マスクの着用は大正期に入ってからもしばらく続いたが転換期になったのは、世界中で猛威を振るい日本でも大正7~10年にかけて約38万人死者を出したスペイン風邪の流行だ。因みに第6代将軍徳川家宣も将軍就任から3年で風邪に似た症状(今で言うインフルエンザ)が出て1ヶ月で亡くなっている。ここで初めてマスクが衛生用品として広く認知され、医療現場でも使用されるようになり、公衆衛生の観点から白色が採用され医療用マスクの需要が伸びた。やがてこの白マスクは日常用として広がり、80年代から始まった“国民病”花粉症の流行等を経て今日に至るまで定番となっている。驚くべきは大正期、マスクはスペイン風邪の流行を背景に約30銭まで高騰した(かけそば6~7杯の値段に相当)新型コロナウイルスの感染拡大当初と同じ状況は、正に「歴史は繰り返す」という言葉通りであった。

ボーイスカウト教育「進歩制度」に技能章は必須課題ですが、技能章について寄稿いただきました。

〔水泳章〕

小川 芳郎

向ヶ丘遊園地へは何かにつけてよく行った。

小、中学生の頃ボーイスカウトで行くと、手漕ぎボートに乗り、プールで泳いだ。シニアスカウトのまきおちゃんは、私が小学校低学年の頃、近所のガキ大将で、怖かった人である。ところが、私が入隊した時にはまきおちゃんが既に入隊していた。



ところで私の泳ぎは江ノ島海岸で伯父から習ったのし泳ぎだった。海での泳ぎはのし泳ぎが楽であった。平泳ぎ、クロールが上手く泳げなかったので、向ヶ丘遊園地のプールで誰か教えてくれないかとシニアスカウト達に頼んだが、本人たちも入園時間一杯泳ぎを楽しみたいので聴く耳を持たなかった。

その中でまきおちゃんが私の願いを聞いて、親切に指導してくれた。あのガキ大将が隊の人気者となっていた。平泳ぎ、抜きて泳ぎ、のし泳ぎは出来たので、川崎1隊の島田隊長と5隊久万隊長から水泳章審査を受けた。審査ではおぼれた人の背後に周り、左ひじに相手の顎を乗せるか、抱きつかれる危険がある時には頭の髪の毛を掴んで右手とあおり足を使って泳いで人命救助する技能であった。溺れている人に抱き着かれた時の脱出法も審査された。

バディシステムの審査もあった。泳ぐ前に自分と相手のバディを決め二人となり、泳ぎの途中、泳ぎの終了時点で水泳監視者(リーダー)の「バディ！」という声を聞いたらただちに近くのパディをさがし、二人一緒に手をつなぎ、その手を高く挙げて「バディ」と大きな声で返答するのである。万一バディがいなければ、溺れた危険が発生したことになる。

これを学んだことにより、神奈川連盟横須賀キャンポリー終了後に引き続いて行った2泊3日の川崎5団のキャンプでは大いに役立った。

久万隊長は中高生9名、大学生2名計11名参加のキャンプの責任者を私に任せて帰宅された。

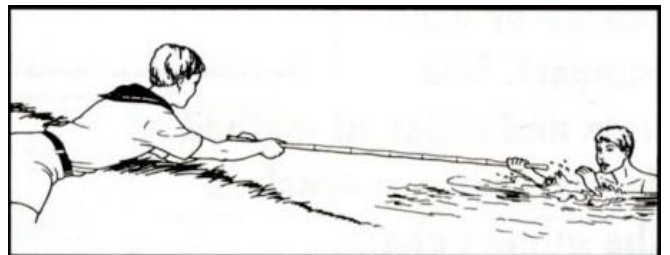
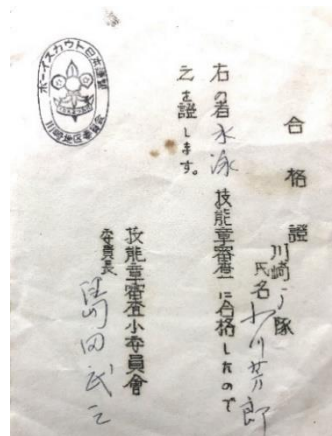
私が副長のときであった。皆、海が近くなので水中めがね、もりを持って潜りたくてうずうずしていた。磯での水遊びではあったが責任重大である。

私はすぐさま陸上でバディを組ませた。そして、バディを徹底した後、時間を区切って海に入らせた。

私は次々に小魚を突いては嬉々として自慢し合っているスカウトを眺めていた。全員を陸に上げた後、私もバディを組み磯で潜ってみた。岩の中にウツボを見つけた。水中では何倍かに大きく見え驚いたが銚子で突いた。海面に上げてみると思ったほどの大きさではなかった。バディシステムで事故も無く楽しいキャンプであった。

別の時、ローバース仲間と江ノ島海岸で海水浴をしていたところ、溺れた少年に急に抱きつかれた。予期せぬことだったので私の身体も頭半分沈んだ。息も吸えなかったがとっさに身を丸めて沈み少年の腹を両足で蹴った。蹴ったときに来た寄せ波に乗って少年は背の立つところまで流され無事であった。

私も難を逃れた。水泳章が生きた。



(BSA・THE BOY SCOUT HANDBOOK)

技能章「通信章」とバーコードの誕生

稲葉 正明

1844年5月24日、アメリカの発明家サミュエル・モールスがボルチモアとワシントン間の電信線開通を記念して、自身が実用化したモールス信号を使って“神よ、何をもたらせ給うか！”と打電しました。その後、現在までの180年間に、モールス信号は新たなテクノロジーを生み出すきっかけとなり、世界の情報・通信分野で多大な貢献をしています。

ボーイスカウトには「通信章」という技能賞があります。5つあるチャレンジ項目の2番目には、「号笛または旗を用いたモールス信号で10文字程度の文章の送受信ができる」ことが定められ、スカウティングを通して情報・通信の知見が得られるようになっています。



アメリカのボーイスカウトも技能賞(サイン、シグナル、信号)の中で、「モールス信号により6~10語の単語を用いたメッセージを送受信する」ことが求められています。

1921年にアメリカのニュージャージー州で生まれたノーマン・ウッドランドもモールス信号に強い関心を持っていたボーイスカウトの一人でした。2012年に91歳で亡くなりましたが、後になって、ご長女が次のような回想をしています。“父は砂浜に座っていた時に、モールス信号の点と線を描いていました。その時にあるひらめきが浮かんだのです。点と線の代わりに太い線と細い線を使った記号で情報のやり取りができるのではないか、”

ノーマン・ウッドランドはこのアイデアをドレクセル大学と一緒に学んでいたバーナード・シルバーと発展させ、1952年にバーコードの特許を取得しました。その後バーコードは世界中で1日に50億回以上も利用されるようになりました。これは、サミュエル・モールスからの問いかけに対する神の答えのようでもあります。もし、ノーマン・ウッドランドがスカウティングを通じてモールス信号を知る機会がなかったら、バーコードは誕生していなかった

かも知れません。

ノーマン・ウッドランド(写真下左)はIBMでの研究生活を送り、数多くの成果を残していますが、スカウトの時代にはイーグルスカウトに進級し、晩年には米国イーグルスカウト・アソシエーション(NESA)の殿堂入りを果たしています。



50歳ごろ写真



NESAの記章

日本でトン・ツーと呼ばれる和文のモールス信号は1873年に考案されています。モールス信号は文字、数字、記号に割り当てられていますが、スカウトのモットーを和文と欧文で表すと奇妙な偶然に気がつきます。

“そなえよつねに”と“Be Prepared”をモールス信号で表してみると、和文、欧文共に、●とーの合計が26個になっているのです！！

★そなえよつねに [・9個、ー17個]
- - - - . . - . - - - - - - . - - . -
- . - - - . - . - .

★BE PREPARED [・17個、ー9個]
- - - . - - - . .
- . - . . . - . . .

川崎地区にもモールス信号に興味をもっているスカウトがいるはず。ボルチモアと川崎の間で通信して、ボルチモアのスカウトに“Be Prepared”という10文字のモットーを発信すれば、通信章の2番目の項目はクリアできそうです。川崎地区の技能賞審査委員の方、宜しくお願いします。

ノーマン・ウッドランドは発明したバーコードの実用化が進んでいた頃に、スカウト運動の創始者であるベーデン・パウエル卿の誕生日、1857年2月22日を右のようなバーコードで表してみようと思っていたかもしれません。このコードはスカウトだけに意味が理解できる信号です。



[ジャンボリー物語]

[10NJへの奉仕]

寄稿 北村 岳人

(地区コミッショナー)

もう30年以上前となる懐かしい思い出となります。10NJへの参加は、大学1年になった年で、参加隊での奉仕の申出が遅れたものの、サブキャンプ(SC)奉仕で参加することができました。

私は第4SCの行事部選択プログラム班に配属され、河合地区委員長他、地区役員の方々とともに、連日、SC全体の運営に従事しました。主な業務は、SCに配属された派遣隊毎のパイオニア賞の授与セレモニーの段取り、プログラムに係る派遣隊への情報伝達でした。スカウトで参加した9NJでは台風に見舞われた天候とは逆で、連日の猛暑で雨が1滴も降らなかった記憶が残っており、毎日、走り回っていました。また、母は川上さん(53団)と大会本部(GHQ)救護部で奉仕し、親子でスカウト会館に集合してバスで向かったと思います。

ジャンボリー大集会では、皇太子殿下(現天皇陛下)を間近に拝見できたことも記憶にあります。

この奉仕機会をきっかけに、その後、姉妹都市の一つであるウーロンゴン市(オーストラリア ニューサウスウェールズ州)との姉妹都市提携5周年記念の青少年代表として選出されました。この後押しをしてくださったのが、元地区委員長の坂谷さんで、こうした経験が現在の恩返しベースにもなっています。



「パイオニア賞の授与セレモニー」



4SC川崎地区役員奉仕者

[第4サブキャンプ奉仕]

渡部 公

第10回日本ジャンボリーは1990年(平成2年)新潟県中頸城郡中郷村(現上越市)・妙高村(現妙高市)にまたがる陸上自衛隊・関山演習場をメイン会場にして開催されました。参加者は約3万名で中郷村・妙高村合わせた人口が約1万名でしたので地元の方々からすれば想像を絶するものだったでしょう。

ジャンボリーに台風、大雨がつきものでしたが今回は雨が全く降らず砂埃に見舞われていました。

私は4SC行事部選択プログラム班で、北村さんと一緒に奉仕をしました。後で聞きましたが、ボルチモア派遣隊ハワード・ラザホード隊長以下15名が4SC内、川崎地区派遣隊に参加していたようですが、私達には知らされてなく気が付きませんでした。

選択プログラム班の仕事は後半にアワード修了カードが集中してきて、チェック後、各隊へ出向いてパイオニア章を授与するためキャンプサイトを走り回りましたが、スカウトの喜ぶ姿を見るのが励みになりました。派遣隊が帰った翌日にキャンプ地を点検後、帰途につきました。とにかく暑かったこと。



[川崎市・災害対策訓練、奉仕]

境 紳隆

川崎市危機管理本部危機管理部の依頼に基づき、2022年（令和4年）9月3日（土）宮前区犬蔵小からの学校にて開催された「災害対策訓練」のお手伝いをしました。訓練は、「川崎市で大地震が発生した」という想定の下、1）大地震発生直後、2）発生数時間後、3）発生から1日後、4）発生から3～4日後のフェーズに分けて、想定される事態を説明すると共に、大災害発生時に必要となる事項を整理し、小学校体育館を「避難所」に見立てて、それらの体験訓練が行われました。

訓練内容は次のような物でした。

- ① 避難本部運営訓練、②居住スペース設置訓練、③要配慮者支援訓練（身体支援）・（子育て支援）、④飲食・談話訓練、⑤サバイバル体験訓練、⑥その他（携帯トイレ体験訓練、ペット避難体験訓練、応急給水体験訓練、応援部隊体験訓練、コミュニケーション訓練）の訓練。

我々ボーイスカウトにはこの内、④飲食・談話訓練における「耐熱性ポリエチレン袋を使用した炊飯訓練」の指導と、⑤サバイバル体験訓練の内、「火熾し訓練」・「テント設営訓練」、「ロープ結び訓練」での指導を要請されました。

要請に基づき、宮前区で活動を展開している川崎第49団及び同54団指導者（団委員）に加え、地区役員数名も参加して指導に当たりました。

「耐熱ポリエチレン袋を用いた炊飯訓練」は、耐熱性ポリ袋（120度まで耐えるもの）に研いだお米と適量の水を加入れ、鍋に沸かした湯で湯煎炊きする炊飯方法です。この方法ですと、綺麗な水は専らお米を炊く為だけに使用すれば良く、湯煎用の湯は多少汚れた水でも問題無い上幾度も繰り返して利用できるため、水の供給が限られた状況下では有効な方法です。しかも個別に少しずつ炊飯しますので感染症対策的にも優れた方法です。

火熾し訓練は、当初「舞い錐式火熾し器を用いた火熾し」の指導を依頼されましたが、「非常時にそれは効果的では無い」旨説明し「ファイヤースターター

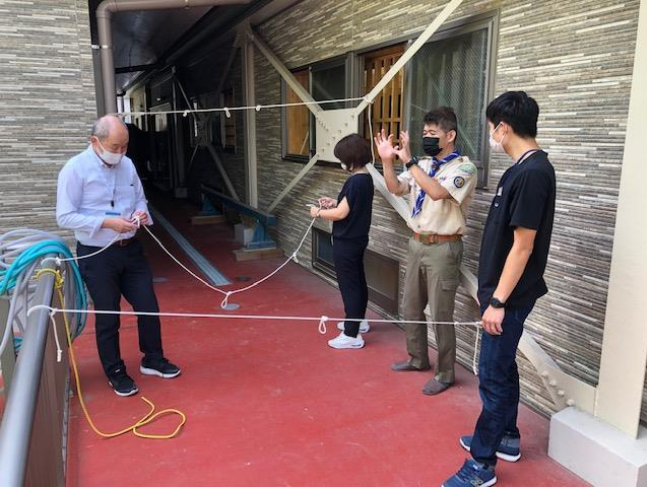
の購入・配付」と「ファイヤースターターを使って身近にあるもので火を熾す方法」の指導を行いました。各家庭で備えている「非常袋」には恐らく、「マッチやライター」が入っていることと想像されますが、マメに点検をしていないと、マッチが湿気って使い物にならなかつたり、ライターのガスが揮発して無くなっていたりすることがあります。そんな時に、「非常袋にファイヤースターター」を忍ばせておけば、身近にあるティッシュ等で火が熾せるという指導を行いました。参加者には、ファイヤースターター（100均で購入可能）を配付し、配付した器具を用いて用意したティッシュの上にマグネシウムの粉を削って落とした上で火花を飛ばすことにより、誰でも簡単に火を熾せることを体験して貰いました。

サバイバル訓練では、「避難所で有効なロープ結び」の指導を行いました。具体的には、ねじり結び・バタフライノットとトートラインヒッチを用いて、使える洗濯物干し用ロープをピンと張る方法を指導しました。また、大勢の人々が集まる避難所において、少人数用テントを活用することで、プライバシーの保護に役立つことを伝授しました。

私達ボーイスカウトの実地体験に基づいた「サバイバル体験」指導は好評を博し、川崎市役所の方々は勿論、参加された方々からも「実践的で大変興味深かった」とお褒めの言葉を頂戴しました。

日頃からお世話になっている川崎市の要請に応えられた上、ボーイスカウトの存在感を示すことができ、私達にとっても有意義な災害対策訓練となりました。





[植物の在来種と外来種]

渡部 公

先日、テレビニュースで「わが国ではセイヨウタンポポが圧倒的に多いが、最近在来種のカントウタンポポが増えてきた」と報道していた。

どのように違うのか？花の下の緑色の部分で見る。



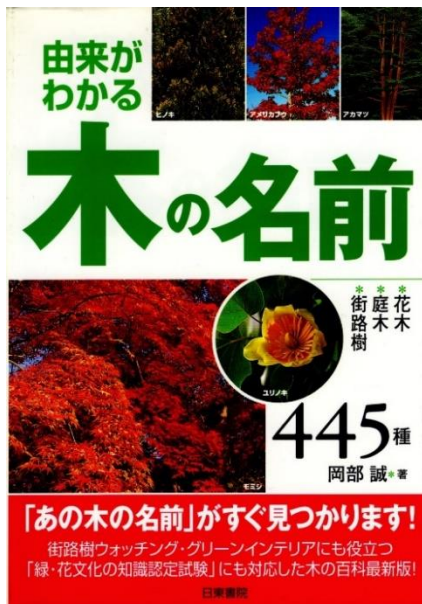
左側がそっくりかえって、右側はすーと伸びている。左がセイヨウタンポポで、右がカントウ（二ホン）タンポポである。

道路際や野原で見られるのは殆どが左側で、残念ながら右側は非常に少ない。

セイヨウタンポポはいつ頃渡来したのか。二つの説があり、北海道にアメリカから“じゃが芋”が輸入された際に一緒にくっついてきた説、“じゃが芋”はヨーロッパから長崎経由で入り「ジャガタラ」から“じゃが芋”となったので南説。いずれも付着で入り、明治期だったと言われている。

外来種に共通しているのは繁殖力が強く、在来種を駆逐してしまうことである。

昨年来調べているのが「樹木」の在来種と外来種



についてである。

この図鑑の著者「岡部誠」氏は神奈川県立農業大学校副校長、県園芸試験場、県立大船フラワーセンター等で勤務されていた元神奈川県職員の方である。

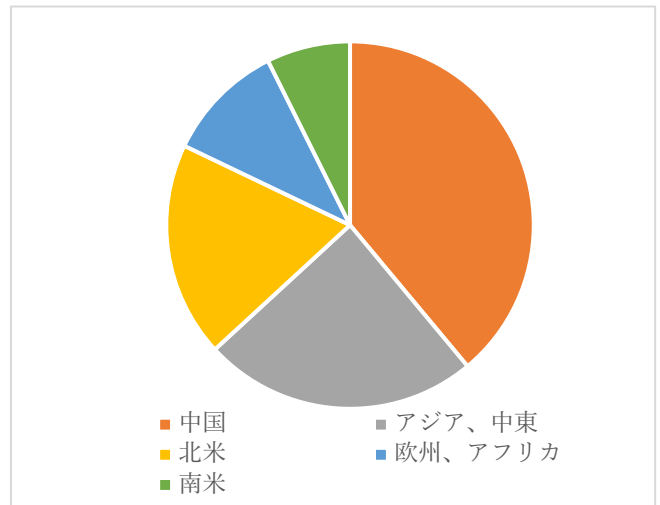
この図鑑を基に455種を在来種

(日本固有種)、外来種(帰化種)に分類してみたら次のようになった。

- ・在来種 255 種 (55%) 外来種 190 種 (45%) でほぼ拮抗している。

・外来種はどこから日本に入ってきたか(原産地)

- ・中国 74 種(39%) ・アジア, 中東 46 種 (24%)
- ・北米 36 種(19%) ・欧州, アフリカ 20 種 (11%) ・南米 14 種(7%)



・主な樹木の原産地

中国

ウメ： 漢方薬「鵝梅」(ウメイ) 由来

アンズ： 漢名「杏」

イチョウ： 〃「鴨脚」音読み

カキノキ：朝鮮語 kam の転訛説もある

ハナモモ：果実用と花に分類

クスノキ：クスシキキ(奇木)の意味

キリ：切るとすぐ芽を出す

ハクモクレン：白いモクレン

アジア・中東

アカシア：ギリシャ語「トゲがある」の意味

イチジク：栽培果樹で最も古い

ネムノキ：イラン原産「眠りの木」

リンゴ：西アジア原産、漢名「林檎」

北米

ハナミズキ：花がきれいなミズキ

ハリエンジュ(ニセアカシヤ)

外来種は原産地が外国でも日本に入ってから在来種と交雑して在来種変種となっているものもあり、調べてみると興味深いので継続して調査を進めたいと思っている。

活動あれこれ

【新春の武州稻毛七福神巡り】

新春行事である“七福神めぐり”は、1月7日(土)今年が多摩・麻生区の七ヶ寺で行ないました。

谷本会長がガイドを務めてくださいました。

バスや電車、徒歩で回るのは結構忙しく、最後の「香林寺」は丘の上にあり、やっとたどり着いた思いでした。今年のご利益があると思います。

皆さんに既に福がありましたか！



【2023年度(令和5年)年次総会】

今年度年次総会は、2月11日(土・祝)住吉会館会議室で、出席者16名委任状3名。議長小川会員の進行で進められ、執行部提案の議事は全て可決されました。総会終了後は、大塚会員による「四国八十八ヶ寺・徒歩巡礼の旅」の講演で、実際に歩いた装束で体験談を披露してもらいました。

まだ続けているとのことで感心しました。



【神奈川宿歴史の道】を歩く

行事部主催今年度第2回目のハイキングを4月15日(土)実施しました。京浜急行「神奈川新町駅」に集合して、参加者9名が駅を起点に旧東海道「神奈川宿」を訪ねるハイキングがスタートしました。

260年続いた江戸幕府が安政5年(1858)日米修好通商条約締結されて日本の夜明けの窓口となった横浜港ですが、当時多くの外国領事館が設けられたお寺、由緒ある神社等を訪ね歩きました。

途中「神奈川地区センター」で休憩。昼食は大きなトンカツを食し、最後は高台にある高島山公園まで上り横浜港、横浜駅周辺の高層ビル群を眺めて変容に驚きながら、総距離6.2kmを歩きました。

幸い天候にも恵まれて陽気も良く、楽しいハイキングでした。



編集後記

- ・3年間続いたコロナウィルス対策は収束されつつあり、やっと日常生活が戻ってきた感じです。これからの活動が活発になることを期待します。
- ・技能章に関する記事を寄稿して頂きましたが、如何だったでしょうか。殆どの商品に使われているバーコードが元イーグルスカウトの考案とは驚きでした。ご存じだと思いますが、QRコードは日本人によって考案されたものです。
- ・次号第43号は9月20日発行予定です。寄稿をよろしくお願ひします。内容は問いません。
- ・タイトル写真は横浜市緑区にある「神奈川県立四季の森公園」5月の風景です。